

研究協力をお願い

昭和医科大学藤が丘病院、藤が丘リハビリテーション病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

腱板断裂後術後症例の再断裂症例の肩甲骨アライメントの特徴の検証

1．研究の対象および研究対象期間

対象となる患者さんは、藤が丘病院で鏡視下腱板修復術（ARCR）を施行し、藤が丘病院リハビリテーション病院で外来リハビリテーションを行い、1年以上経過観察可能であった約 80 名を対象とします。

対象期間は 2022 年 1 月～2024 年 4 月までに手術を行った方とします。

2．研究目的・方法

【目的】

ARCR 後の患者さんは、術後経過の中で肩関節の可動域や、痛みや日常生活における肩関節の調子を示す臨床スコアが改善します。また、患者さんによっては修復した腱板が再度断裂してしまう「再断裂」の状態となってしまう患者さんもいます。再断裂が生じると、これらの指標は低下する傾向があり、防ぐべき合併症とされています。再断裂の原因として、年齢や糖尿病の有無、術前の断裂サイズなどが挙げられていますが、実際の肩関節運動に関しては検証されていません。再断裂のある患者さんとなない患者さんの肩関節を検証し比較することで、合併症を生じさせないリハビリテーションを実践することができます。そのため、ARCR 後の理想的な肩甲骨・鎖骨運動の明らかにすることを目的とします。

【対象および方法】

対象は RTSA を施行し、1年以上経過観察可能であった約 100 名を対象とします。

肩関節可動域に関しては、通常の理学療法で定期的に計測する関節可動域の値を使用します。単純 X 線画像に関しても、通常の診察において定期的に撮影するものを使用します。

統計解析に、Spearman の順位相関係数を用い、有意水準は 5%とします。

3．研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2026 年 12 月 31 日まで

4．研究に用いる試料・情報の種類

2022 年 1 月から 2024 年 4 月に藤が丘病院整形外科にて RTSA を施行した患者データから患者背景（性別、身長、体重、診断名、既往歴、現病歴）、肩関節可動域、単純 X 線画像を調査項目とします。

5．外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6．研究組織

研究責任者

昭和医科大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻 前田 卓哉

7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻

氏名：前田 卓哉 職名：理学療法士・講師

住所：〒142-8666 東京都品川区西中延 2-14-19

電話番号：03-3784-8989

E-mail：maeda.t@cmed.showa-u.ac.jp

研究責任者：前田卓哉